

学会参加レポート

The International Society for Neurochemistry and the European Society for Neurochemistry Meeting に参加して

高橋美由紀

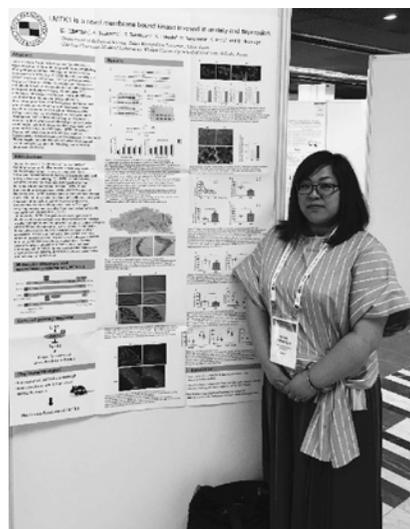
(首都大学東京 理工学研究科 神経分子機能研究室)

私は、ISN からのトラベルアワードを受賞し、2017年8月20日～24日の間、フランス・パリで開催された The 2017 ISN-ESN Meeting に参加してきましたので、ここに学会レポートとして報告させていただきます。

パリでの開催が決まった時から、必ずこの学会に参加し発表をしよう！と目標にして研究に励んできました。何故ならば、この学会参加がヨーロッパ圏への初めての訪問だったからです。憧れのパリは、観光のトップシーズンであったことから、各国からの様々な人種の観光客でごった返していました。ISN-ESN Meeting の会場は凱旋門に近く、そこからシャンゼリゼ通りまでの統一された綺麗な街並みに感動したのを覚えております。

私は前回の 25th ISN Meeting にも参加させて頂きましたが、その時に比べ、オーラル・ポスター共に非常にコンパクトな会場となっており、興味のあるセッションへの往來が楽に行えました。また、発表ポスターを閲覧できる時間も多く設けられており、全体を通して焦らずゆっくり学べたことは、大変良かったです。本学会は ESN との共同開催のため、多くのヨーロッパ圏の研究者にお会いすることができました。オーラル・ポスター発表のどちらにおいても女性研究者、それも若い方が多く、同性の私としては大変印象深いものでした。何人かの女性研究者たちとお話しさせて頂いたところ、国の法規や福利厚生が整っているため、子育てをしながら第一線で活動し続けられている、とのことに感銘を受けました。日本においても女性研究者が家庭と両立ができ、子育てをしながらも活動し、上位職に就ける環境の整備が早急に必要であることを肌で感じました。

本学会において私は、「LMTK1 is novel membrane bound protein involved in anxiety and depression」というタイトルでポスター発表を行い、軸索や神経突起伸長の制御因子 LMTK1 がうつ・不安様行動に及ぼす影響について報告致しました。ポスター発表は2時間のランチタイム、及び夕方2時間のディスカッションタイム内で計2日間行いました。幸いなことに興味をもって来聴して下さる方がおり、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、夕方の



ディスカッションタイムではお酒を片手に行ったこともあり、いつもよりも緊張することなく、質問やディスカッションを活発に行うことができました。英語での発表は緊張しっぱなしの私ですが、このような経験を積むことが何よりも一番の勉強であると自負しております。もし、海外発表にチャレンジされていない若手研究者の方がいらっしゃるのなら、ぜひ思い切って経験を積んでいきましょう。最後になりましたが、このような大変貴重な機会を与えてくださいました日本神経化学会員の皆様に深く御礼申し上げます。